

奈良市まちづくり市民会議（第8回）概要記録

■日 時： 平成22年3月29日（月）午後7時00分～午後9時00分

■場 所： 奈良市役所 中央棟6階 正庁

■プログラム：

1. 開会
2. 「テーマ別将来像」の発表
3. 「市全体の将来像」の発表
4. 市民会議代表から市長への提案（提案書の受け渡し）
市長あいさつ
5. 市長と委員との意見交換
6. 閉会

■会議資料：

- ①奈良市まちづくり市民会議 提案書
- ②奈良市まちづくり市民会議 各分科会発表資料

※全て受付時に配布

■出席者：

【市民公募委員】41名（欠席11名）

赤尾 隆、アダルシュ シャルマ、阿部 智子、井上 雅由、植田 正博、岡本 胤継、
奥村 麻希子、北 良夫、北浦 由香、木村 宥子、熊野 磯一、小島 道子、笹部 和男、
佐藤 正幸、サマン ペレラ、澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、田北 ますみ、
武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、反田 博俊、友田 達郎、中川 徹、橋本 光男、
長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 朝子、濱 恵介、春田 稔、松永 洋介、松森 重博、宮本 郁江、
村田 勝彦、元島 満義、山本 素世、山本 善徳、吉田 俊夫

【事務局】7名（奈良市長 仲川 げん、企画部長 森本 恭平
企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 奥田 喜司、
主任 木村 和弘、引野 あずみ、山岸 公彦）

【ファシリテーター】4名（醍醐 孝典、六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子）

■傍聴者：4名



■会議の概要：

1. 開会

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 40 名が出席。

○市民会議の代表について：

分科会代表の同意のもと、第 2 分科会代表の澤崎嘉造委員を市民会議代表に選出。
出席委員の同意（拍手）をもって決定。

2. 「テーマ別将来像」の発表

○各分科会の代表又は副代表がパワーポイントを用いて説明。

各分科会の発表：10 分間

<各分科会の発表の概要>

第 1 分科会発表

本分科会は「生きやすいまちづくり」をテーマに発表いたします。

我々の分科会では、テーマ別将来像を「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」としました。

スライドに映っている子ども達のように、ずっと笑顔で暮らしているまちということになります。2 枚目のスライドの左側は、紛争地にいる子ども達の写真です。この写真に映っている子ども達は笑顔になっていますが、子ども達が本当に笑顔で暮らせるようなまちを考えなければなりません。

このような将来像を考えた背景として、最初に奈良市のよいところを考えました。奈良市のよいところとしては、自然環境、平和が似合うまち、豊かな文化財や観光資源といった意見があがりました。また問題点についても意見を出しあいました。もっと、まちを良くしたいという思いもあり、多くの問題点があがりました。問題点としては、市域の東側の環境の良さに比べ西側では自然の破壊が進んでいること、老後や子育てが心配なところがあること、子育て支援の充実、若者が東京などに転出してしまふこと、医療体制に関する不安、格差や市の財政における問題、昔は犯罪が少なかったが最近では犯罪も増加し、凶悪化していることなどがあがりました。

このような点を踏まえたうえで、本当に幸せに暮らせるまち、生きやすいまちとはどのようなものかを考えた結果、「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」をテーマ別将来像としました。

最初は「子や孫が笑顔で暮らせるまち」でしたが、本分科会で最も若い委員から「ずっとこのような社会であってほしい。」という思いから「いつまでも」という言葉を付け加える提案があったため、「いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち」としました。

それを実現するためには、「平和のネットワーク」をつくり、「安心安全でいのちを大切にする」まちになることが大切です。また、それを支えるのは「市民が自ら行動」することです。「行政が悪い。」「市民が悪い。」と言われることがよくありますが、そうではなく、自ら行動することで、まちを良くしていくことが大切です。

それではまず、5 枚目のスライドで「平和のネットワークをつくる」ことについて説明いたします。平和は暮らしやすさの前提です。あちらこちらで争いがあったり、す

ぐ隣で喧嘩があると、嫌な気持ちにもなりますし、暮らしづらくなります。また平和であれば、世界がつながることができます。奈良市は寺院や神社が多く、数年前には世界宗教者平和会議が東大寺で開かれました。平和の大切さは、健康と同じで、一度失わないと気づかないようなものだと思います。それだからこそ、今、平和であるうちに、平和の大切さを発信していくことが重要だと思います。奈良市から、世界中の武器を廃絶するよう発信し続けていけば、奈良市で平和産業といったものが誕生するのではないかという意見も出ました。

次に6枚目のスライド「安心、安全でいのちを大切にする」についてご説明いたします。多様性を認める社会や教育、つまり「あれが正しい。」「これが正しい。」と言うのではなく、多様性を認めていくことが大切です。そして、強い者だけが幸せな社会ではなく、弱い人も幸せになれる社会であってほしいと思います。子ども、つまり授かった命を皆で育てることも求められます。最近では、子どもへの虐待などもあると聞きます。子どもだけではなく親も悩んでいると思います。皆で、子どもや子育てをしている人たちを支えるまちになればよいと思います。そのためにもネットワークやコミュニティが大切だと思います。10年後に実現するのは難しいかもしれませんが、将来には、医療費を無料にしたり、最低の生活が保障されるようになればよいと思います。北欧では、これに近い取り組みを行っている国もあると聞いています。北欧にできて日本にできないわけではないと思うので、10年後ではなくとも目標としておいてはどうかと考えました。

7枚目のスライド「市民自ら行動する」は、人に頼ってばかりでは駄目で、自己責任を全うしなければならないということです。人や弱者にやさしくする必要はありますが、皆が弱者では困るので、自分が強くならなければなりません。また参画・協働・協力・共生や、自立、自己責任などが大切です。自分さえよければよいという考え方ではなく、自分もしっかりし、周りもしっかりとできるよう働きかけていくことが大切です。年をとっても元気で働き続けたいという気持ちをもっておられる方々がたくさんいらっしゃいます。しかしそのような場があまりないので、つくられるとよいと思います。さらに市民が施策や事業決定に参加できる仕組みがあればよいという意見もあがりました。今回、このような市民会議を設けていただいたので、これをもう少し継続、発展させてほしいと思います。

最後にテーマ別将来像をもう一度、ご覧いただきたいと思います。「いつまでも」は、10年先だけではなく、その後も良いまちであること、「子や孫が」は、子どもだけが幸せであればよいのではなく、子どもや孫が幸せに暮らしていれば、その親や祖父母も、そして皆がきっと幸せになるだろうと考えました。「笑顔で暮らせるまち」については、皆がしかめっ面であるまちは楽しくないので、皆が笑顔で暮らせるまちになればよいと考えました。このようなまちになることを願い、「いつまでも子や孫や笑顔で暮らせるまち」という将来像にしました。

第2分科会発表

本分科会では、「魅力を生かしたまちづくり」というテーマで話し合いました。

第1回会議の後に、奈良の魅力をシートに沿って考える機会が与えられましたが、

本分科会でも、最初に、奈良市の魅力について話し合いました。様々な意見があがりましたが、大きくは歴史と自然に集約されました。本分科会が考える魅力といたしましては、この1300年間に蓄積された歴史の一部を表すものとして、世界遺産をはじめとした歴史的建造物、埋蔵文化財、まちなみ、伝統的行事、自然環境などがあります。一方、目には見えない魅力もあります。いにしえの方々の思い、それはおそらくおもてなしの心や平和への願いだと思います。そのような様々なことも含め、今日まで築き上げられてきた歴史そのものに価値があるのではないかと思います。

奈良市には、様々な魅力がありますが、それには様々な問題が取り巻いているように思います。4枚目のスライドには「“点”として存在」「市全体の魅力につながっていない。」と書いてあります。これは奈良市に限ったことではないですが、いかにして、点在している魅力を結びつけるかが課題です。これは交通対策も影響すると思います。

そして2番目に「市民や来訪者が魅力をわかりやすく知ることができる環境が整っていない。」と書いてあります。奈良市には奈良の観光名所の1つである近鉄奈良駅になら奈良館があります。入館者数が1年間で約36,000人、1日にして約100人と、非常に少ないです。春日大社周辺にこのような施設をつくれば、もっと入館者数は増えると思います。

3番目に「時代とともに資源が失われている。未だ魅力として認識されていないものもある。」と書いてあります。例えば、春日原始林については、保全のために入るができないのならば、ビデオで紹介する、あるいは一部だけでも入ることができるようにする、一度に入ることができる人数を制限するなど、皆に春日原始林の魅力を理解してもらえよう工夫が必要だと思います。

このような問題は、「皆が、今ある資源を当然のことと捕らえ、恩恵と感じていない。」が最も大きな要因になっているのではないかと思います。

以上を踏まえて、私たちは「時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち」というテーマ別将来像を設定しました。その将来像を実現するため「皆が魅力を知り、その恩恵を感じるまち」、「まち全体が魅力にあふれるまち」にしたいと思います。そうすれば、奈良市以外にいる人、外国の人も、奈良市に行きたい、泊まりたい、住みたいというような憧れの念を抱くと思います。そのような気持ちを持つ人が増えれば、奈良市も、人口の確保や産業の活性化にもつながり、強いては財政の健全化に結びつくのではないかと思います。

それでは「皆が魅力を知り、その恩恵を感じるまち」についてご説明いたします。まず、古い文献・地図を読み解いたり、専門家や外国人等の目を通して、資源が再確認・再発見されることが大切です。奈良市には、まだ表にあらわれていない資源がたくさんあると思います。このような資源を発掘して、さらに奈良市の魅力を高めたいと思います。

そして、魅力が分かりやすく伝えられる必要があります。特に未来を担う子ども達に伝えていくことが、とても重要だと思います。また、奈良市に誇りをもつ市民、つまり私たちが国際交流や情報発信をし、世界に広く奈良市を知ってもらうことが大切だと思います。

次に「まち全体が魅力にあふれるまち」とするために、再確認・再発見された資源

を、その周囲も含めて守らなければなりません。また場合によっては整備が必要になってくるかもしれません。さらに先人達の思いから心のあり方を学び、それも活かしていかなければなりません。市民が奈良市に住み、働くことに誇りを持ち、奈良市を訪れる人をもてなす心をもつことで、市民自身が魅力になるのではないかと思います。

以上の点を踏まえ、テーマ別将来像を「時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち」としました。

最後に、このような将来像にするために、必要な取り組みについても話し合いましたので、少しご紹介させていただきたいと思います。

まず、歴史をわかりやすく紹介する設備が必要です。先ほど近鉄奈良駅にある「なら奈良館」についてお話しましたが、歴史館などを奈良公園周辺につくっていただきたいと思います。次に施設の紹介看板も必要です。現在は非常にPR不足だと思います。観光施設などの場所がわかりにくいという観光客もたくさんいらっしゃいます。3番目は春日原始林の魅力を何らかの形で皆に理解していただきたいということです。4番目は奈良の歴史を物語風に子ども達に伝えることです。これは学校教育の一環として行われるとよいと思います。紙芝居風にして伝えたり、実際に遠足で現地に行き、話を聞いてみてもよいと思います。奈良市には有料拝観の仏閣等がありますが、月に1度くらいは子ども達が無料拝観できるようにして、子ども達が歴史に触れやすい環境をつくっていければよいと思います。5番目は、古い文献・地図から、各地に眠る資源の再発見を行うことです。6番目は古都保存法の遵守に加え、自然やまちなみを守るために、宅地の開発や土地利用・建物の制限も必要です。7番目は街路樹の整備や緑化、世界遺産をバッファゾーンとして保存していかなければならないと思います。最後に、奈良の歴史を保全していくために、専門家は必要です。このため、専門的な組織を充実させていただきたいと思います。

第3分科会発表

私たちの分科会のテーマは「活気あるまちづくり」です。10名で話し合いを行ってきました。会合は6回しかありませんでしたので、我々はできる限り、ポイントを絞り、掘り下げて考えることができるよう、最初にコンセプトを考えました。「観光ビジネスモデルの創造で、奈良に活気あるまちづくりを実現する」というコンセプトです。委員の皆が「活気あるまちづくりは、観光の振興から」というこのコンセプトを心に留めながら、話し合いを進めてまいりました。

まず背景ですが、奈良の市民は満足した生活をしているのでしょうか。皆さんが実感されているように、奈良市には自然環境や歴史資源が豊かで、天災のない、恵まれた市で、他府県と比べ素晴らしいところです。市民意識調査でも約70%の方々が、将来も奈良市で暮らしたいと思っているという結果が出ています。しかしながら、将来に対する不安が拭えず、少し元気がないというのも本音のところではあります。奈良市が将来発展するために、これをすればよいというものをはっきりとしていないと言われていきます。他分科会でも市財政の健全化に関する意見も出てきています。「慢性化した大いなる課題」というタイトルを書いておりますが、このような戦略会議は今までに何度も行われています。そこで話し合われてきたことが実際の形として見えていない、ど

れくらい先に実現されるのかもわかりません。また、負債が 3000 億円に膨大し、今後、奈良市はどうなるのか市民も大変不安に感じているのではないのでしょうか。

発展には成長産業が必要です。成長産業がなければ、まちはどんどん廃れていきます。奈良市にそのような産業を早くつくらなければなりません。それでは奈良市に夢と希望と輝きを求めるためにどうすればよいのでしょうか。例えば、東京ディズニーランドは、毎日 70,000 人の来場者があります。東京ディズニーランドは「東京」と頭についていますが、千葉県浦安市にあります。国際展示場の東京ビッグサイドは、お台場であり、周辺はフジテレビやアミューズメントサイトがあり、発展しています。地方都市では、北海道旭山動物園があります。この数年で、北海道ツアーには必ずこの動物園が含まれています。このような施設ができれば、奈良市はもっと元気になると思います。

そこで、私たちの将来像を考える 4 枚目のスライドのようになります。

奈良の観光を産業化するには、市政の選択と集中が決め手となります。「あれもやってほしい。」「これもやってほしい。」では上手くいきません。そこで観光が奈良市の切り口になると思います。現在、政府は外国人観光客を 2020 年までに 2,500 万人、つまり現在の約 3 倍に増やすと目標を定め、国家的なプロジェクトを進めています。現在、奈良市に訪れる外国人観光客は約 35 万人ですが、皆が一生懸命に取り組めば、現在の 5 倍の約 150 万人、10 倍の 350 万人も不可能ではないと思います。そのためには都市づくりと人づくりが必要です。

観光振興の方向性としては、まず、奈良にある非常に良いものを物語として組み立てることが求められます。我々は、魅力あるツーリズムプランと呼んでいましたが、観光ビジネスモデルをたくさん出していくということです。

次に物語を伝えることです。これは、奈良市に来たお客さんを、しっかりと案内し、満足して帰っていただくようなガイドシステムをつくることです。ハワイやグアム、中国などに行かれるとわかるように、必ずこのような方がガイドをしています。

そして何よりお客さんに来ていただくために、物語を発信していく必要があります。現在の奈良市のホームページでは、それなりに情報が掲載されていますが、様々な情報をリンクさせているだけであり、皆さんに「奈良市に来てください。」と迎えるようなものにはなっていないと思います。

このような将来像を実現させるために、観光ビジネスモデルをつくっていくことが、本分科会の狙いです。そのつくる、伝えるということを代表して、「ならティブ・奈良」というイメージをつくりました。ナレーション、つまり伝えていくことが大切だということを、皆で共有しました。

現在の奈良市の観光は、山焼きなどイベント型です。観光業者は、なかなか思い切ったことはできません。観光は日本の中期戦略ですから、市の将来を観光にかけるといことで、次の 6 点が必要となります。「他県にない特有の強みをシステム化」し、「来訪者に主眼をおいた新交通システム・宿泊システム」をつくり、「歴史遺産、神社仏閣他の相乗戦力」を使い、「プロガイドなどの充実」を図るなどして、イベントからシナジーステージをつくり、全体的に観光力を高めていくことが大切です。現在は観光協会が一生懸命取り組まれています。やはり行政が旗振り役となり、そこに市民

がサポートしていくべきだと思います。大切なことは、市がしっかりと決裁をし、誰が事業を組み立て実行していくのかを明確にしていくべきだと思います。

今までお話ししたことを、5枚目以降のスライドで表しています。「物語を組み立てる」の箇所にツーリズムプランを書いています。様々な体験プランや史跡巡りなどを観光モデルにして紹介していきます。それをプロのガイドが伝え、情報発信はインターネットを使い、国内外のどこでも同じように見ることができるとよいと思います。

6枚目のスライドについては、国際観光都市・奈良を目指すため、アイデア集として、「ツーリズムプラン」「情報発信」「まちなみづくり」「エコプラン」「市民の役割」という5つに分類してまとめてみました。奈良市には非常に良い観光資源があります。まずは実行をしてみればよいと思います。奈良市には他府県がうらやむような観光資源がたくさんあります。早く観光ビジネスモデルを創造していただきたいと思います。

7枚目のスライドは非常にカラフルですが、これは皆で考えたプランをマップのように表したものです。ここでは、人にやさしい交通システムをつくったり、外国人を受け入れるために24時間型のバスターミナルや宿泊施設が必要といったことが書かれています。また、そのようなことを考え、運営していく部門が必要ということも書かれています。このような部門が、ならティブ・奈良という観光事業センターのようなものだとご理解いただければと思います。

グッド、ベター、ベストという言葉がありますが、今の世の中、ベストでも駄目なのです。京都に勝ち、観光客が奈良に泊まっていただくなど、観光を盛り上げていくためには、ミラクルな観光都市をつくらなければならぬと思います。

第4分科会発表 （分科会副代表が説明）

本分科会は、「人をつくるまちづくり」というテーマで10名が集まりました。教員の経験者や地域の自治会等で活躍されている方々など、様々な経験をもつ委員が集まり、将来像を考えました。また本分科会では、第7回会議の後、自主的な会合を2回持ちました。この会合で提案書の原稿案の文言を検討したり、パワーポイントを作成しました。

まず、「人をつくる」ということで、どのような場面で人づくりを考えるのか、どのような場で人材は育成されるのかということから、話し合いをはじめました。そこで学校教育、生涯教育・社会教育という場面が想定されました。また、人材育成は、簡単にできるものではなく、時間がかかるなど、様々な話し合いを経て、テーマ別将来像を「世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち」としました。

この将来像を導き出すにあたり、背景を考えました。これは奈良市特有の問題や、社会全体の問題もありました。様々な意見があがりましたが、最終的には、少子高齢化の急速な進行が最も大きな課題と考えました。しかも超高齢社会という言葉もあるように、高齢化は急速に進行しています。次に奈良市の大きな外せない課題として財政問題があります。どうしても様々な場面で費用の問題は発生しますし、行政サービスのあり方にも影響します。

次に学校教育、地域、行政の3つの場面で課題を整理しました。まず地域での課題は、地域力の低下があげられると思います。私も皆さんもそうだと思いますが、おつ

きあいの意識や仕方が変わってきていると思います。分科会では助け合いが乏しくなっているのではないかという意見があがりましたし、奈良市の政策アドバイザーからも同じような指摘があがっています。例えば、皆さんのなかには、自治会は必ずあるものと思っていらっしゃる方も多いかもかもしれませんが、賃貸ではなく分譲のマンションで、自治会が結成されていないところが出てきています。このようなことからわかるように、協力関係やなじみといったものがなくなっていると思います。

学校では、学校現場に余裕がありません。ゆとり教育が終わったことは、皆さんもご存知だと思います。例えば水曜日は全学年5限目まで授業があります。水曜日は職員会議を開く曜日でもあり、先生方が職員会議をする時間が遅くなります。また近年、体験型やワークショップ型の学習がよくされるようになっており、これはとても良いことなのですが、先生方にとっては準備がとても大変です。このようなことで、教員をされていた委員から、そのような状態では余裕を感じるできない、子ども達に十分目を行き届かせにくいといった意見があがりました。さらに1学級の人数の問題も影響します。現在30人学級が進められているようですが、1学級あたりに人数が多いと、やはり先生方は余裕がなくなってきました。

また、全体的に地域とのつながりが少なくなっているのではないかという意見もありました。地域からサポートを得られている学校と、そうではない学校との差がかなり出てきているのではないのでしょうか。例えば、子どもの安全の見守りという取り組みをされている学校もあれば、取り組んでいない学校もあると聞きます。地域がサポートできることがもう少しあるのではないかと思います。

行政については、財政の悪化、これは言葉の通りです。奈良市というのは、他の分科会でもご指摘がございましたように、様々な特徴をもった地域があります。旧市街地の抱える問題は少子化や産業、観光等に関する問題であり、住宅地の多い地域では、子どもの安全・安心や教育、福祉、高齢化の問題など、対策の重点の置きどころが、地域によって異なってくると思います。このようななか、今まで私たちが受けてきた公共サービスを今後も同じように受け続けるのは難しいと思います。公共サービスが受けられなくなったとき、誰がそのサービスを補っていくのかについて意見交換もしました。

これらの背景・課題をまとめた結果、私たちが考えた将来像が「世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち」です。

具体的には、まず、「地域のつながりを実感できるまち」がつけられることが大切だと思います。必ずしも濃いつながりでなくても構わないと思います。お互いに何となく、あの人は近所の人だとわかっていたり、会えば挨拶をしたり、なじみの関係ができればよいと思います。また自治会や子ども会での様々な行事を通して、親密になっていたり、趣味やスポーツのサークルで、お互いに関係を育んでいくということもあると思います。このようにして、どこに誰がいるのかという程度はお互いに理解しておけば、きっと様々な形で協力しあえるのではないかと思います。このようなつながりをつくるために、特に様々な世代が交流できる場が必要という意見が多く出ました。様々な施設が事業仕分けなどで廃止されていますが、そのような場所を使って趣味のサークルや自治会の会合を開けるようにすればよいという提案もありました。ま

た兵庫県で取り組まれています。スポーツクラブをつくれれば、様々な年代の方がお互いに顔なじみになったり、つながりあえるのではないかという意見も出ています。スポーツは競技に限らず、楽しみや健康づくりにも役立ちます。

「子どもを育むまち」については、まず学校の問題があります。学校の問題は、奈良市だけで解決できないかもしれませんが、部分的にでも何か対応できるのではないかと思います。まず、教職員がゆとりをもって配置されてほしいと思います。例えば30人学級を進めてはいかがでしょうか。教職員にゆとりができれば、子ども達にも十分目が行き届くと思います。子ども達が基礎学力を習得できるよう、十分指導できるし、体験型学習においても、様々な意見を交しあうこともできると思います。

また、「全ての大人が全ての子どもを育む」という視点に基づき、地域に住む大人が様々な形で学校に関わることが求められます。子ども達も地域のことをより深く知ることができ、子ども達も地域の一人、子どもは守られるだけの存在ではなく、子どもも役割をもって地域に関わっていくという意識を育むことができるのではないのでしょうか。

「市民が力を出し合えるまち」は、「力を出し合える」という点がポイントです。我々のなかには、1歩踏み出せる人もいれば、半歩しか踏み出せない人もいます。そこで力を出し合えるよう、行政やNPOの力が必要になると思います。

このような考え方をとりまとめたものが、6枚目のスライドの図です。特に支える仕組みについては、様々なNPOが、それぞれの活動目的・活動範囲に応じて連携をしあっていければよいのではないかと思います。

最後に、この将来像を実現するために、7枚目のスライドにあるように、様々な取り組みアイデアが出ています。それぞれができることに取り組んでいくことが大切だと思います。

以上が、本分科会のテーマ別将来像「世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち」の内容です。特に「誰が」を入れたことが本分科会のポイントです。やはり、人をつくるのは人だと思うので、このような将来像を考えていきたいと思います。

第5分科会発表

本分科会は、「住みやすいまちづくり」というテーマのもと、様々な意見を出し合い、考えをまとめました。キーワードとしては、安全、安心、防災、住環境、交通、生活環境、地球環境、都市計画、主に都市デザイン、奈良市の特質など、このまちと不可分の問題を扱ってきました。

まず、「住みやすさ」の基本的な要素について考えました。住まいや働く場所、生活環境が整っていることなどが、一般的な「住みやすさ」だと考えられていますが、だからといって均質なニュータウンばかりになることが、このまちにおける「住みやすさ」とは言えないと思います。奈良市は、もっと変化に富んだ、特色のあるまちだと思います。そこで奈良らしい住みやすさは、「地区ごとに個性的で美しいこと」、「歴史遺産や自然が大切にされていること」、「市民が奈良に誇りをもてること」だと考えました。またこのような条件が満たされるだけでなく、いつまでも続くこと、つまり持続可能であることが大切です。都市デザインについても、50年が経てば使えるもの

ではなく、仕切りなおしが必要になるようなものでは駄目で、ずっと続いていけるものでなければなりません。

そこで、持続可能なまちをつくるためには、まずは環境問題に取り組んでいく必要があります。奈良市だけで環境問題が解決されるわけではありませんが、奈良市は環境分野において最先端のまちを目指してほしいと思います。奈良市の特質を考えると、都市と田園が、ある程度狭い地域のなかに混在していることが特徴であり、このバランスを保って発展していくことが奈良市の目指すべき方向性ではないかと思います。

以上のことから、持続可能性、過去、現在、未来の時間軸と、奈良市の特徴である都市と田園地域といった空間軸を考え合わせ、「歴史と未来、都市と田園が共生する奈良」というテーマ別将来像にしました。

この将来像を実現するために、4つの視点「環境的持続可能性」、「文化的持続可能性」、「社会的持続可能性」、「経済的持続可能性」に沿って考えを取りまとめました。「経済的持続可能性」については、第3分科会で現実的で具体的な提案がされており、この内容を補完するものであると考えたため、我々の分科会では「環境的持続可能性」、「文化的持続可能性」、「社会的持続可能性」について考えました。

まず、環境的に持続可能なまちにすることは、皆がまちに暮らすのをやめ、田舎暮らしをするよう進めるということではありません。都市と自然環境をどのように調和させていくかが重要です。近年、コンパクトシティという言葉がよく使われるようになっていますが、奈良市は本格的に取り組めば、コンパクトシティ化は遠い目標ではないと思います。人口減少が進むとインフラストラクチャーに余裕が出てきます。人口減少を利点として捉えることもできると思います。また脱マイカー依存が必要です。マイカーは結局のところ、インフラストラクチャーとお金と人の時間を食いつぶしてきたという側面も持つのではないかと思います。コンパクトシティを進めるためには、マイカー依存を抑え、公共交通中心の交通システムに移行することになると思いますが、脱マイカー依存にすれば、観光や経済、地域コミュニティ、文化財の保護にも役立ちます。歩行者主体の公共交通システムを構築していけばよいと思います。

また、都市を持続させるためには、新たなエネルギーを利活用し、エネルギーを自前で用意していくということも必要です。県内で既に取り組まれている自治体がありますが、特に木質バイオマスを進めるとよいと思います。これは、森林資源の有効活用、地域産業の活性化とエネルギーの多様性の確保など様々な効果が期待されます。是非取り組んでほしいと思います。

文化的に持続可能なまちになるよう、まずは先人が築きあげてきた奈良の独自性を尊重し、歴史的まちなみの保全や街路景観の改善が必要となります。市内には景観のひどいところがあります。また、地区ごとの特性や個性が活かされたまちづくり、市民の誇り、シビックプライドの確立が必要です。ならまちは、まちづくりを始めて約30年になりますが、次第にブランドも確立され、商店街には店舗も増え、最近では若い店主が営む店舗も出てきています。先日は、ならきたまちで、奈良女子大学や地元の有志等の主催で、ならまちにある地域資源を歩いて再発見するという画期的なイベントが開催され、約100名の参加がありました。これも約10年前から奈良街道まちづくり研究会が、一生懸命まちづくりに取り組まれ、地域に眠る様々な資源を有機的に

つなごうという取り組みを進められているからだと思います。このような取り組みが地区ごとの特性・個性が活かされたまちづくりです。

地域ごとの特性・個性というのは、奈良市は少し街路を越えると違う文化のまちがあり、時代的にも、奈良時代や鎌倉時代、江戸時代など様々な時代の文化財がモザイク状に存在します。それら全てを有していること自体が奈良市の特徴で、奈良特有の文化として持続していければよいと思います。

社会的に持続可能なまちについては、多様な人々、ライフステージに対応した安心な暮らしが実現できればよいと思います。例えば市内に住む若い人が、大学進学時に市外に転出し、市外で就職してしまうと、奈良市には帰ってきません。それでは困ります。一時的に市外の大学に進学するとしても、奈良市に生まれ、大人になり、子どもを産み育てることで次代につなげていかなければなりません。また家についても親の代で建てたものを子の世代になって建て替えることは愚の骨頂です。よい建物をつくり、次代につないでいくことは、まちなみの形成と不可分です。防災安全、安心・福祉についても大切なことですが、他の分科会でも検討している内容と同様ですので、具体的な説明は省略させていただきます。多様で活発な地区間交流については、エコビレッジといった提案も出ました。奈良市は市内で山村留学ができるという特徴をもっています。そのような観点等を取り入れ、社会、人々が関係性をもっていければよいと思います。

これらの観点で持続可能なまちをつくっていけば、テーマ別将来像「歴史と未来、都市と田園が共生する奈良」、つまり様々な特質をもったまちが有機的につながり、発展していくまちがよいのではないかと考えました。

第6分科会発表

本分科会では、7名が「市民と行政とのまちづくり」というテーマのもと話し合いを進めました。最初に皆で話し合ったとき、全員が、財政再建が必要と言ったので、私は非常に驚きました。このことは、本分科会の委員が、奈良市の財政が厳しいことを理解していることに加え、夕張市が財政再建団体になったということが新聞やテレビ等のメディアで過大に報道され、市町村も倒産することがありうることを心配したことが一因になっているのではないかと思います。皆さんご存知かどうかわかりませんが、奈良市も昭和30年に財政再建団体に指定されたことがあります。当時の市民は、あまり気にしなかったと思いますし、また当時は高度経済成長期を迎えていたことから、奈良市は昭和38年には、無事、財政再建団体ではなくなっています。むしろ、財政の厳しさという点で見れば、現在の方が状況は厳しいかもしれません。今、全国には、財政再建団体の一步手前の市町村もあります。これら市町村は夕張市と同様に、市長が一生懸命、借金を抱えてまでまちづくりに取り組んだことが原因です。奈良市にとって不幸だったのは、バブル期に市街地再開発事業に熱心に取り組んだため、事業を実施すればするほど、借金が増え、債務残高が増加してしまい、そのつけがきています。その後、就任された市長はその事業で生じた借金のために、自分たちが実施したい事業に取り組めない状況になっています。

財政の健全化の必要性について説明いたします。

奈良市の平成20年度末の債務残高が約3,141億円となっております。これは、1世帯当たり換算すると、約207万円と非常に多額なものになっております。次期総合計画の10年間は、さらなる行財政改革に取り組み、財政の健全化を強力に進めていく必要があると思います。まず、無駄を排除し、民間の経営感覚を取り入れ、職員の意識改革をすることが求められます。そして10年後には、次代を担う子ども達が、のびのびと遊び、家族や地域のなかで生き生きと生活できるような環境を整えるため、必要な財源を確保しておきたいと思っております。

市民と行政の協働の意義と課題といたしましては、債務残高の多い奈良市では、今後、市民は十分な公共サービスが請けられない場合の覚悟が必要となります。そのために市民は、要求・批判・評論といった域に留まるのではなく、主体的に自ら幸せと公共の利益を真剣に考えていく必要があります。また行政については職員が市民感覚を持ち、健全な行政運営を行わなければなりませんし、企業も奈良市の行うまちづくりにできる範囲内で貢献しなければなりません。

このようなことを踏まえ、本分科会はテーマ別将来像を「市民と行政が協働する健康的な財政によるまちづくり」としました。

まず、まちづくりのあらゆる主体が協働するまちとして、市民、市民公益活動団体、事業者、学校、及び市が対等の立場で、それぞれの特徴を尊重し、認めあい、企画立案から実施評価にいたるまで協議を重ね、共通の目的である、公共的な課題の解決のため、共に取り組んでいくまちになっていることが求められます。

次に健全な財政が維持できるまちとして、行財政改革を継続することにより、人々が家族や地域のなかで、生き生きと生活ができ、なおかつ、未来を描くために必要な投資が適切に実行できるまちになっていることが必要です。

なお、健全な財政という言葉は、市民が理解しやすいよう、健康的な財政という言葉に置き換え、「市民と行政が協働する、健康的な財政によるまちづくり」としました。

3. 「市全体の将来像」の発表

○各分科会の代表がパワーポイントを用いて説明。

各分科会の発表：5分間。

<各分科会の発表の概要>

第1分科会発表

奈良市まちづくり市民会議提案書の20ページをご覧ください。本分科会では、「いつまでも笑顔あふれるまち奈良」を奈良市全体の将来像としました。

背景を読みますと、2行目でも書いてあるように、本分科会では、“人”と“幸せ”に焦点をあてて、奈良市全体の将来像を描くことが望ましいと考えました。そして将来像を考える際には、誰もが納得でき、目指したくなるような将来像になるよう、心がけました。

また、まちじゅうが笑顔であふれている状態が、10年後の時点だけではなく、できる限り早く実現し、そして将来にわたっていつまでも続くことが重要だと考えています。

これらのことを踏まえて、本分科会では、奈良市全体の将来像を「いつまでも笑顔

あふれるまち奈良」としました。

具体的には、20 ページ下側の図をご覧ください。おわかりいただけるのではないかと思います。

それでは、最後に、笑顔があふれているスライドをつくりましたので、ご覧いただきたいと思います。これを見ていただければ、笑顔あふれるまちが良いのではないかと考えていただけるのではないかと思います。文字中心のスライドの後に続く、写真のスライドは、自分の世代、つまり今の世代の笑顔です。次は、親の世代の笑顔です。次は子どもの世代の笑顔です。そして次のスライドが大切だと思うのですが、世代を超えて、子どもも大人も、ご高齢の方も、ひいおじいちゃんも、ひいおばあちゃんも、笑顔でいることがとても大切です。私の一番好きな写真です。このような笑顔あふれるまちになればよいと思います。このようなまちが、持続可能な社会、Sustainable societyにつながるのではないかと思います。このような社会をつくるために、スライドで書かれているようなこと、例えば子どもたちが健やかに育つにはどうすればよいか、鳥と人が共生するにはどうすればよいか、河川についてもどのような整備をしていけばよいのかなどについて考え、取り組んでいく必要があると思いますが、これは、今後、行政と市民が一緒になって、どうすればよいのか考えていけばよいと思います。

第2分科会発表

本分科会では、奈良市全体の将来像について、様々な意見があがり、この「はじまりの都ー世界あこがれの都市(まち)へ」は最終的には多数決で決めたものです。まずは、この将来像についてご説明させていただいたうえで、その他に提案のあった将来像についてもご説明したいと思います。

まず、奈良市全体の将来像を考えるにあたって気をつけたことは、奈良市独自の特徴をわかりやすく表し、かつ中学生にもわかるような表現にしたことです。また、できる限りコンパクトな表現になるよう、努めました。例えば、世界遺産、エコ、自然などの言葉は、他市町村の将来像にも出てくるような言葉なので、奈良市全体の将来像には使わないようにしました。

奈良市は古くから平城京が築かれ、多くの神社・仏閣が建設され、日本人の心の源となるような歴史文化遺産や風景が数多く残っています。平城京では、天平文化が花咲いて国際交流都市として大きく発展したと言われていています。奈良市の源となる、これらの特徴を踏まえて、奈良市の今までの姿を「はじまりの都」と表現しました。

この「はじまりの都」から、世界あこがれのまちを目指したいと思います。今後も歴史文化遺産、風景といった魅力の向上に加え、市民生活においても福祉・介護・子育てなどが行き届いて、安全・安心のまちづくりを行い、市民の表情を見ると、そのことが見てとれるようになればよいと思います。将来、日本はもとより、世界中から憧れを抱いてもらえるような国際都市に発展していることが望ましいと思います。

また、奈良市全体の将来像については、他の意見もありましたので、発表させていただきます。

まず、「はじまりの都」という表現ですが、「はじまりの都」だけではわかりづらいという意見がありました。実質的な日本はじまりの都は平城京なので、「はじまりの都」

を「日本はじまりの都」という表現にしてはどうかという意見がありました。

それとは逆に、日本最初の都は藤原京であるということが、通説になりつつあるので、このような表現を使わない方がよいという意見もあがりました。そして「世界に誇る、歴史・文化・自然を活かす、豊かなまち 奈良」または「ゆったりと時の流れをつむぐ都市」という提案もありました。また「はじまりの都」という表現は、文法上に見てもおかしく、「都のはじまり」にすべきだという意見もありました。

このような様々なご意見があり、なかなか1つにまとめきれませんでした。本分科会としては「はじまりの都ー世界あこがれの都市(まち)へ」を奈良市全体の将来像としました。

第3分科会発表

本分科会 10名のなかに、奈良市で生まれ、今まで過ごしてきた人が、私を含め4名いました。あと6名の方が、所帯をもったとき、また生活を新たにするために奈良市に転入してきたという方々です。そのようなメンバーで、奈良市全体の将来像を考えました。1回の会議でしかなかったため、よりポイントを絞って話し合いました。

新しい事業ビジネスをモデルの形にしてつくりあげていかないと、奈良市は元気を取り戻せない、将来の奈良市は見えてこないと思います。成長と安心のまちづくりを実現したいというのが、我々の思いです。

本分科会のテーマ別将来像でもご説明させていただいたように「NARRATIVE・奈良～悠久の物語を伝えるまち～」という考えのもと、過去からずっと伝わってきた物語を、再度つくりあげ、伝えたいと思います。

背景をご説明いたします。45～50年前の奈良市は、約16万人の地方都市でした。観光で盛況に、全国に話題を振りまき、修学旅行も多かったように思います。以降、高度成長に支えられ、他の都市と同様、急激に成長しました。そのためにベッドタウンが次々とつくられ、建設業界やハウスメーカーやそれにまつわる業界が潤い、奈良市も約45万人までとなりました。しかしながら、ものづくりが日本から、韓国、中国、ベトナムといった海外に移行し、そのことで非常に就労者の数が減り、逆に65歳以上の高齢者が増えました。また、奈良市の人口も行政の見通しでは約30万人にまで落ち込むことになっています。このままでは税収は当然少なくなり、市の財政が前途多難になるのではないかと思います。このことにより市民サービスに限界が生じます。負債の不安もまだ拭えません。住民税の高負担化にもなるかもしれません。このようななか、我々は、奈良市の成長産業は、唯一、観光産業だけではないかと考えました。

新しい計画の位置づけに向けて、現在の長所は、市民は比較的環境のよいところに安らぎをもって住んでいます。今後成長性があるのか、財政再建が必要ではないかという悩みも抱えています。新しい時代の市長に期待したいことは、成長をベースとした観点を持ち、変革点をもつていただきたいと思います。昨日と同じ、先月と同じ、昨年と同じといった状態では、何も変わりません。何で稼ぐか、何を成長産業としていくのかをはっきりと見定めてほしいと思います。ビジネスをしっかりモデル化して、行動に移してほしいと思います。将来の安心は、市の財政の健全化に加えて、新卒者の就労の確保、高齢者ばかりが延長就労すると若い者の働く場がなくなってしまいま

す。また高齢者へのサポートも必要です。そして計画の実現性を高めるために、人と事業の質の向上や計画の選択と集中が必要だと思います。

我々の発想の視点は、奈良市の観光を成長産業事業として取り組み、ミラクルな国際観光都市を創造することにより、将来に向けて安心できる健全な奈良市を再建できるのではないかとことです。

奈良の特徴、強さ、モデルにできるのかどうかを順次組み立ててきました。その結果、奈良市には他の都道府県にはない素晴らしいものを持っているので、これを使って、まちづくりを長く将来にわたってつくっていくことが必要であり、このことを我々は「NARRATIVE・奈良」としました。

第4分科会発表

テーマ別将来像の発表の際も説明いたしましたように、第7回の会議の後、自主的な話し合いを2回設けましたので、第7回会議時の発表から、多少内容が変わっていると思いますが、ご容赦ください。

本分科会が考えた奈良市全体の将来像は「世代を超えて力を出しあい未来につなげる古都奈良」です。

奈良市全体の将来像というより、望まれる奈良市全体の将来像から導きだした第4次総合計画のキャッチコピーという位置づけが適切ではないかと思ます。

それでは、市民が、どのような将来像を望んでいるのかについては、昨年8月に奈良市が市民意識調査を実施されています。その結果がスライドにあるグラフですが、14個の選択肢があります。上位1～6位が、それ以降のものよりも抜き出て多くなっております。7位以降のものはどうでもよいではありませんが、少なくとも上位6位については実現が求められると思ます。

1位から6位までに選ばれた将来像をご紹介します。まず1位は「文化財を保護し、歴史の風格を保有する歴史都市」、2位は「子どもやお年寄り、障がい者などにやさしい福祉都市」、3位は「自然環境を保護し、公園や街路樹などの緑豊かな都市」、4位は「観光客などの訪れる魅力ある観光都市」、5位は「交通事項や犯罪並びに公害、災害のない安全・安心な都市」、そして6位は「都市施設が整い、暮らしやすい生活都市」となっています。このように質の違うものがあがっていますが、それぞれ矛盾するものではなく、この6項目については、全てを実現していく必要があると思ます。なお、これらは、他の分科会で考えておられる奈良市全体の将来像とも矛盾するものではないと思っています。

将来像は計画に書いて終わりではなく、実現することに意味があります。将来像をどのようにして実現していけばよいかを考えると、現在の厳しい財政状況や少子高齢化の進行など、厳しい社会状況のなか、行政には、もちろん頑張ってくださいたいのですが、行政に全てを任せきることはできないと思ます。

このため、将来像を実現させるためには、あらゆる世代の市民が力を出し合い、助け合うことが大切です。あらゆる世代というのは、子どもも単なるお客さんではなく、社会の一員として積極的に力を出していく必要があります。また、このことが子どもの成長にも役立つと思ます。そして高齢者もできる限り、社会参加をしていただき

たいと思います。このことが高齢者の生きがいや健康づくりにもつながると思います。

次に市民が、未来に夢と希望を持って、先人から受け継いだ古都奈良を次の世代につなげていく必要があります。我々の世代だけがよければよいのではなく、良いものは将来につなげていく必要があります。

このような市民の姿が、奈良市全体の将来像を支える根幹をなすと考えました。

このため、本分科会では、奈良市全体の将来像を「世代を超えて力を出しあい未来につなげる古都奈良」としました。

この将来像を市民の皆さんや行政の方々に見ていただき、今後のまちづくり、人づくりに積極的に取り組んでいただけるとありがたいと思います。

第5分科会発表

本分科会が提案する、奈良市全体の将来像は、「持続可能な環境古都・奈良」です。

先ほど発表させていただいた本分科会のテーマ別将来像と各分科会で検討された将来像を加味して、奈良市全体の将来像を導きだしました。

スライドにある概念図は、本分科会のテーマ別将来像の骨組みをもとに、各分科会が中間発表等でお話しされた内容を盛り込んで図にしたものです。

「市民と生活」が図の中心にあり、それを成り立たせるために必要な条件を整理しています。背景にあるものが、これからのまちの絶対条件である「環境的持続可能性」です。それから、テーマ別将来像の発表時にご説明した「文化的持続可能性」「社会的持続可能性」「経済的持続可能性」という3本の翼が出ています。一番左上の四角の枠のなかに、「持続可能性」の基本理念として、「都市、環境は未来世代からの預かりもの」と書いてあります。このまちも山も文化財も、過去から引き継いだもので、かつ将来からの預かりものであるという考え方を基本において、まちづくりをしていくべきです。また同じ枠内の最下行に「遅れたことが最先端、『なつかしい未来』へ」と書いてあります。中間発表時、複数の分科会から「周回後れのトップランナー」という言葉が出てきましたが、奈良市はもたもたしているうちに、あこがれのまちに化けたという、幸運な状況にあります。

奈良市において、エコは、単なるイメージや掛け声ではありません。奈良市においてエコとは、実利性、将来性そのものです。コンパクトシティや脱マイカー依存は、環境、観光、経済、コミュニティ維持、文化財保護、都市アイデンティティつまりシビックプライド、安全安心という、一石二鳥、三鳥、四鳥、またはそれ以上の効果があり、とても大切なことです。これを基本に、これからの奈良市をつくっていかねばならないと思います。資金もありませんし、従来続いてきたコミュニティも、お年寄りが亡くなるなどの理由で、次第に崩壊しつつあります。従来の都市経営の状態であると、現在の良いところもなくなりかねません。今年、1300年目を迎えた奈良市ですが、今年をスタートラインとして、1300年後の西暦3310年にも生き残っていくことが奈良市の責任であり、誇りです。奈良市は生き残れるための材料を既に持っています。地勢的にも文化的にも1300年続いてきた実績があります。周回遅れのトップランナーになった幸運を活かし、これらの材料を上手く活用していけば、奈良市が環境先端歴史文化都市を目指すことに、何の疑問もないと思います。人類の宝、世界遺産

のそばに暮らし、1000年後も文化を育み続ける環境古都奈良、その基盤を今後10年で完成させていけばよいのではないかと思います。

第6分科会発表

本分科会は、奈良市全体の将来像を検討するにあたり、テーマ別将来像にとらわれることなく、より広い視点をもって検討しました。

まず、平成20年度に実施した市民意識調査の設問「奈良市がどのような市になることが望ましいか」で、最も支持が多かったのが歴史都市です。このことから「歴史都市」というテーマは、奈良市全体の将来像を考えるうえで欠かせないものだと考えました。次に歴史とは、長い時間をかけて生み出され、育てられた文化や文化財を有することであり、また過去と現在をつなぐだけでなく、現在と未来をつないで新しい歴史をつくりだすものです。これらの点を踏まえ、歴史を「とき」と読み、「歴史(とき)をつなぐ」で歴史都市を表現しました。

そして奈良市は、市民の直接投票で7割を超える賛同を得て定めた「奈良国際文化観光都市建設法」を尊重したまちづくりを進めてきました。奈良市は1300年前に、日本の首都として建設され、当時は外国との交流が盛んに行われた国際都市でした。グローバル化の時代を迎えているにあたり、あらためて「国際都市」を目指すべきだと思います。

最後に奈良市の活性化を図るには、観光産業の振興が重要です。世界遺産の指定を受けた文化遺産やそれに匹敵するような文化財をはじめ、志賀直哉が、現在のこのまちを「名画の残欠が美しいように美しい。」と、文化財と自然が融合している姿を指して言っています。さらに東部地域の里山のある自然環境など、これらを守るだけでなく活用して、観光産業を振興することも大切だと考えます。

このような要素をまとめ、「歴史(とき)をつながる国際観光都市」としました。

4. 市民会議代表から市長への提案（提案書の受け渡し）

事務局（企画政策課 引野）が進行。

○市長への提案書：

各分科会の代表が委員を代表して舞台に上がり、市民会議代表から市長に「奈良市まちづくり市民会議 提案書」を手渡した。

○市民会議代表のあいさつ：

私たちは、8回の会議にわたり、熱心に話し合い、将来像を作成いたしました。私たちが話し合ってきた内容を、単なる参考意見とするのではなく、1つでも多く実現に向けご検討いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

○市長あいさつ：

今、皆様からいただきました「奈良市まちづくり市民会議 提案書」につきまして、少し感想を述べさせていただきたいと思います。

第1回の会議に出席させていただきまして、私も時間の許す限り、それ以降の会議も出席させていただきたいと思っております。

しかし、本日、皆様の発表をお伺いして、結果として、そのようにしなくてよかつ

たと思っております。

それはなぜかと申しますと、皆様の発表された内容が、私が目指している、これからの奈良市のビジョン・まちの姿に大変近いものであったからです。例えば毎回私が会議に参加し、皆様と話し合いをしたうえでの本日の発表であれば、私が抱えているイメージと近くても何ら不思議ではないのですが、これだけ時間が経ち、皆様が8回に渡ってご議論いただいたものが、これほどまでに私にとっても理想とする奈良市の姿と等しいものであることに、非常に大きな驚きを感じております。

先ほどから各分科会の代表の方が発表されている姿を拝見し、一人一人が「市長」というお気持ちを持って取り組んでいただいたのではないかと思います。先ほどのご発表のなかで、「シビックプライド」というお言葉をいただきました。市民としてのオーナーシップ、自分がまちの担い手であるという気持ちを持とうということであると思います。委員の皆様が一人一人が「自分が市長ならばこのようなまちにしよう」と、主体的に、まちの未来に責任をもって、しかも具体的にアイデアをご提案いただいたこと、これは奈良市にとって本当に画期的なことであると思います。

奈良市も今まで様々な計画の策定、審議会・委員会等を開催してきましたが、これほどたくさんの市民の方に、これほど濃密にご議論いただき、また具体的な提案をしていただいたのは、奈良市が始まって以来ではないかと思います。

今後は、総合計画審議会において、皆様からの提案書を基礎として、さらに専門的な観点から肉付けしながら、より大きな総合計画にしていきたいと思いますが、皆様には、是非今後も引き続き様々な形でご提案・ご意見をいただきたいと思います。何よりも、この奈良というまちを、10年かけて皆でつくりあげていくことが最も重要だと思います。もちろん、行政も責任をもって取り組んでまいります。行政に任せきりにするのではなく、市民の皆様も企業も、大学も、皆が連携して、1つの夢に向かって、出せる力を出していくこと、支えあっていくこと、これほど素晴らしいことはないと思います。私も第1回の会議に出席したときには、正直なところ8回の会議で十分に議論をまとめられるのか、心配をしたところも多少ありましたが、これほどまでに完成度の高いものをいただけるのは、大変ありがたいと思っております。改めて皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

○「奈良市まちづくり市民会議 提案書」の取り扱いについて（事務局説明）：

- ・奈良市のホームページ等に公開する。
- ・平成22年3月30日開催予定の第2回奈良市総合計画審議会でも紹介する予定。

5. 市長と委員との意見交換

<意見交換の概要> 【凡例】委委員意見、長市長意見

- ・委提案書の26ページに参考意見として書いていますが、実際に奈良市に生活する者として、実現していきたいことを提案として取りまとめました。それをただ、提案して終わるのではなく、どのように具現化していくか見守らなければならないと思いますし、実現できるよう、私たち市民1人1人が関わっていかなければならないと思います。奈良市まちづくり市民会議は、制度上これらの役割を担うものではないとお聞きしましたが、それならば、新しく、私たちが今後も関わって

いけるような仕組みを、是非つくっていただきたいと思います。

- ・**長**貴重なご意見をありがとうございます。せっかくいただいたご意見を、そのまま10年間放置するといったことは、絶対許されないとだと思います。総合計画を策定するというプロセスでは、次は総合計画審議会、その次は市議会となります。実はこの3月の市議会で、議員提案があり、今までは基本構想だけを市議会で審議することになっていましたが、基本計画までしっかりと議論していくことになりました。市職員も市議会も皆でスクラムを組んでより良いものをつくっていきましょうとしています。また、総合計画はあらゆる分野が含まれた計画ですが、個別の分野の計画にも落とし込んでいく必要があります。これら個別分野の計画・委員会・事業などのなかに、どのようにしてもっと皆様に参画していただけるような仕組みをつくっていくのかは、私たち行政側の宿題だと思いますので、今後も努力して頑張っていきたいと思います。

- ・**委**この総合計画が策定された後、総合計画の内容を市民にわかりやすく伝えられるような、6～8ページほどの冊子を全戸に配布していただきたいと思います。我々市民がどのように取り組むべきか、考えるべきかを知るために、つまり市民の当事者意識を育てるためにも、配布をご検討いただきたいと思います。

- ・**長**今まで、このような類の計画は出来上がると、分厚い報告書になり、行政の本棚に飾られるということが多かったように思います。今、ご提案いただきましたように、市民の皆様にわかりやすく伝えられるような仕組みを考えていきたいと思っています。

- ・**委**本日、私は、シビックプライドという言葉がとても印象に残りました。奈良市では外国人は観光客に多いものだと思いますが、私たちのように自国よりも長い期間、奈良市に住んでいる人もいます。私は、このような会議に参加することで、奈良市民だと感じることはできますが、ここまで思えない外国人の方もたくさんいらっしゃると思います。私たちは、どのようにシビックプライドを持てばよいのでしょうか。私たちが、このまちでどのような役割を担うことができるのでしょうか。このまちに移り住んできた外国人やその家族、子どもが、このまちで役割を果たし、このまちの本当の市民となり、シビックプライドを持てるようになるのか、今後どのようになるのか不安もあります。その点についてお聞かせいただければと思います。

- ・**長**奈良市には文化の多様性を尊重してまちを発展させてきたという特徴があります。そのような意味では、海外からお越しになる観光客だけではなく、地域にお住まいの外国人の方、また外国人の方だけではなく、様々な文化や多様性をもった方が奈良市にはいらっしゃると思います。今後は様々な形で社会に参画していただくことは重要だと思います。今回は奈良市の総合計画ですので、奈良市民が手づくりでつくっていくのですが、奈良市に関心のある方、奈良市を第2のふるさとと思ってくださっている方、世界中に奈良市のために力を出してくださろうとしている方が、潜在的にはもっとたくさんいらっしゃると思います。そのような方々

にも協力をしていただき、共にこのまちをつくっていくことができればよいと思います。

- ・**委**総合計画の策定にあたり、このような会議をつくってくださったことは、とても素晴らしいことだと思います。しかしながら、6つの分科会で委員の皆さんが討議された結果が、総合計画審議会の皆さんにどのように受け止められ、最終的には市議会の皆さんがどのように取り入れていかれるかが、より重要になると思います。市議会も市民の代表です。総合計画審議会に参加される皆さんも、学識経験者も含め、様々な知識や知恵を持たれた方々です。その方々が、我々普通の市民が真摯に話し合ってきた結果をどのように取り上げていくか、今後の過程がより重要だと思います。また、提案書の最後の本論の最後のページに参考意見を載せています。この意見は、今後の大きな課題だと思います。市民会議が提案したものが今後どうなるかを検証する機関が大切だと思います。この参考意見を十分にお汲み取りいただきたいと思います。さらに、このような仕組みを、行政の各分野で活かしていく必要があると思います。応募者全員を委員にしたということも良かったのではないかと思います。今後とも、より良い市政を進めるため、多くの市民の意見を聴取していただきたいと思います。提案書や発表資料を、多くの皆さんの目に触れられるような広報をしていただきたいと思います。
- ・**長**ご指摘いただいた点は、私も非常に大きな課題と捉えております。この市民会議は奈良市で初めての取り組みですので、皆様に作成していただいた提案書が、どの程度具体化していくのか、まだこの時点は、お答えできる段階ではないと思います。本日は、明日開催される総合計画審議会の委員長も、皆様のご意見・情熱を肌で感じようと傍聴されていますので、間違いなく皆様の思いは届くと思います。また議員の方も見学に来ていただいております。皆様が議論されていることについては、多くの方が非常に大きな関心をもって見ておられます。そして、まとめられた提案が、その後どのような形になっていくのかにも大きな関心が寄せられていると思います。これが市民参画、市民が主役の市政づくりの第一歩だと私自身も考えておりますので、今後も注視していただき、引き続き市政にご参加・ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。
- ・**委**実際に施策を実行するにあたっては、小さな手間のかかることよりも、大きな効果の出るところにまず切り込み、スピーディに取り組んでいただけると、市民も納得し、行政に信頼も出てきて、市の発展にもつながると思いますので、是非ご検討ください。
- ・**長**市民の皆様にとっては、私が市長に就任して約8ヶ月で、新年度から、暮らしが具体的にどのように変わるのかということに大きな関心をお持ちいただいていると思います。その意味では、「やったかやらなかったかがわからないような改革ではなく、はっきりと目に見える成果を出してほしい」ということが市民の皆様の願いだと私も痛切に感じております。是非、いただいたご意見については、少しずつかもしれませんが着実に動かしていきたいと思っております。

6. 閉会

司会(企画政策課 吉村)から説明。

○会議閉会にあたって：

- ・「奈良市まちづくり市民会議 提案書」をもとに、奈良市総合計画審議会等の審議を経ながら、今後、事務局が中心となり、基本構想(素案)の将来都市像やまちづくりの基本方向をまとめていく予定。
- ・今後、総合計画の策定に向けた検討の進行状況については、随時、奈良市のホームページで公開していく。
- ・本日の会議録については、事務局でまとめて、後日、委員の皆様へ送付する予定。